

Impact of Hospital Practice Factors on Mortality in Patients Hospitalized for Heart Failure in Japan. : An Analysis of a Large Number of Health Records From a Nationwide Claims-Based Database, the JROAD-DPC

加来, 秀隆

<https://hdl.handle.net/2324/6787513>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (医学) , 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名	加来 秀隆
論 文 名	Impact of Hospital Practice Factors on Mortality in Patients Hospitalized for Heart Failure in Japan. - An Analysis of a Large Number of Health Records From a Nationwide Claims-Based Database, the JROAD-DPC -
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 塩瀬 明 副 査 九州大学 教授 馬場園 明 副 査 九州大学 教授 嶋打 正浩

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 1. 研究背景

日本の心血管病において、心不全は入院中死亡および再入院率が高く、最も発症の多い疾患である。心不全入院の症例数と心不全の院内死亡率には反比例の関係があることが示されている。しかし、それ以外の医療機関の施設側の要因が心不全患者の院内死亡率へ与える影響に関する報告はない。本研究では因子分析を使用して施設側の要因をグループ化して特徴づけることで、これらの因子と心不全入院患者の7日死亡率、30日死亡率、院内死亡率との関連を評価することを目的とした。

1. 2. 研究手法・研究結果

医療機関および患者データは日本循環器学会が行う循環器疾患診療実態調査（JROAD）のデータとDPCデータを統合したJROAD-DPCデータベースを使用した。2012年から2014年の間に、683施設に入院した198,861人の急性心不全患者のデータを解析した。因子分析にて90項目の施設側要因の調査項目に対して因子分析を行い、5つの因子へグループ化した。「心血管インターベンション」、「心臓血管外科」、「小児循環器」、「電気生理学」、および「心臓リハビリテーション」の5つである。この5つの因子を調整変数として、心不全の急性期死亡率との関連について多変量ロジスティック回帰分析を行った。30日死亡率は8.0%であった。「小児循環器」因子（オッズ比（OR）0.677, 95%信頼区間（CI）0.628-0.729, P値<0.0001）、「電気生理学」因子（OR 0.876, 95%CI 0.832-0.923, P<0.0001）、「心臓リハビリテーション」因子（OR 0.832, 95%CI 0.792-0.873, P<0.0001）はそれぞれ死亡率の低下に関連していた。対照的に「心血管インターベンション」因子（OR 1.167, 95%CI 1.070-1.272, P<0.0001）は死亡率の上昇に関連していた。

1. 3. 結論

治療行為などの施設側要因で表される医療機関の特性は、急性心不全患者の急性期予後に関連している可能性が示唆される。

以上の結果はこの方面の研究に新知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法結果等について説明を求め、各調査委員より専門的な観点から、論文内容およびこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。なお本論文は共著者13名であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。